
風と麦藁帽子

イツミン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風と麦藁帽子

【コード】

N0429J

【作者名】

イシミン

【あらすじ】

吹き降ろす風と見下ろす町と坂道と自転車

自転車は坂を下っていく。

その出来事はあつという間だ。

登ってくるまで大変だった坂道を一瞬のうちに通り過ぎ、私は風を感じていた。

目線の遥か下には、海に望む街並みが見える。

この坂道が、私はとても好きだ。

「あ……」

不意に、私は自転車を止めた。

止まるうとした場所から少しだけ行き過ぎ、自転車は緩やかに制
止する。

気にかかったのはなんだろう？

止まる寸前までは、何かを見つけて止まろうとしたはずなのに、止まった後でそれを見失ってしまった。

何か大切なことだったような気もするし、全然大したことないような気もする。

「なんだろ……」

なんだかよくわからない、一瞬だけ空白に包まれた気分。

胸になんだかもやもやが残ったが、ペダルに足をかけ、私は再び坂を下り始める。

ブレーキを軽く握って、緩やかな風を浴びながら、ゆっくりと坂を下る。

と、突然の突風。

山から海に吹き降ろす風。

かこの中に入れてあった麦藁帽子が、それに煽られて舞い上がった。

「あっ」

手を伸ばしたけど、もう遅かった。

それは遠く、街の中へと落ちていく。

「あーあ……」

だんだん小さくなっていく麦藁帽子を見限り、私は目線を海へと向けた。

遙か向こう。

水平線と空が交わる境界。

湾内に戻ってくる船に見送られながら、雲がその向こうに消えていく。

ふと思う。

風は何処に行くのだろう……と。

風は何処から生まれ、何処を目指していくのだろう……と。

私は目を閉じた。

木々のざわめく音。

鳥の鳴く声。

全てが染みるように、私の中に入っていく。

もうすぐ7月も終わる。

ゆっくりと目を開き、私は握っていたブレーキを離してスピードを上げた。

空へ舞った麦藁帽子。

風がそれを欲しがったのならあげよう。

何処へ行くのか知らないけれど、長旅になるなら帽子の一つも必要だ。

代わりに買えばそれでいい。

そつだ、それなら旅に出よう。

帽子を買つたら旅に出よう。

旅には帽子が必要だから、帽子を買つたら旅に出よう。

何かを探すたびに出よう。

旅には帽子が必要だ。

帽子には旅が必要だ。

風よ、きつかけをありがとう。

(後書き)

坂道と 風と 自転車と

あと 偶発的な思い出

この坂は実在します
僕の好きな場所です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0429j/>

風と麦藁帽子

2010年10月17日06時09分発行